

令和元年度の焼津市の財政の健全化に関する比率の報告について

1 一般会計等に係る健全化判断比率

項目	比率	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率	—	11.94%	20.00%
連結実質赤字比率	—	16.94%	30.00%
実質公債費比率	6.5%	25.0%	35.0%
将来負担比率	7.0%	350.0%	

※ 実質赤字額及び連結実質赤字額が生じていないため、実質赤字比率及び連結実質赤字比率は算定されません。

2 公営企業に係る資金不足比率

会計	比率	経営健全化基準
水道事業会計	—	20.0%
病院事業会計	—	
公共下水道事業会計	—	
温泉事業特別会計	—	

※ いずれの会計においても、資金不足額が生じていないため、資金不足比率は算定されません。

3 各比率について

(1) 実質赤字比率

＝一般会計等の実質赤字額／標準財政規模×100

△2,732,781千円（黒字）／27,291,124千円×100＝△10.01%

(2) 連結実質赤字比率

＝地方公共団体の連結実質赤字額／標準財政規模×100

△8,413,311円（黒字）／27,291,124千円×100＝△30.82%

(3) 実質公債費比率

＝一般会計等が負担する元利償還金及び準元利償還金／（標準財政規模－算入公債費等の額）×100（3か年平均）

(6.87512+6.34090+6.57580)／3＝6.5%

平成29年度 1,630,866千円／23,721,263千円×100＝6.87512

平成30年度 1,504,480千円／23,726,596千円×100＝6.34090

令和元年度 1,571,712千円／23,901,449千円×100＝6.57580

(4) 将来負担比率

=一般会計等が将来負担すべき公営企業等を含めた実質的な債務 / (標準財政規模-算入公債費等の額) ×100

$$1,680,461 \text{ 千円} / 23,901,449 \text{ 千円} \times 100 = 7.0\%$$

(5) 資金不足比率

=公営企業ごとの資金の不足額 / 事業の規模 ×100

水道  $\Delta 2,219,874 \text{ 千円 (黒字)} / 2,048,005 \text{ 千円} \times 100 = \Delta 108.4\%$

病院  $\Delta 2,790,855 \text{ 千円 (黒字)} / 11,443,776 \text{ 千円} \times 100 = \Delta 24.4\%$

下水道  $\Delta 235,864 \text{ 千円 (黒字)} / 652,704 \text{ 千円} \times 100 = \Delta 36.1\%$

温泉  $\Delta 1,001 \text{ 千円 (黒字)} / 17,574 \text{ 千円} \times 100 = \Delta 5.7\%$